

氏名	岡 崎 哲 郎		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2435 号		
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	肺癌患者における血清酵素 Leucine Aminopeptidase(LAP) isozymeの研究		
論文審査委員	教授 木村 郁郎	教授 折田 薫三	教授 産賀 敏彦

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肺癌手術例73例を対象として血清 Leucine Aminopeptidase の活性値を測定し、セルロースアセート膜電気泳動法にてisozyme分画比を求めた。とくに、isozyme Y分画比の手術前後での経時的変動をみることにより、癌の進展度や予後との関係について検討した。

癌の進展、とくに腫瘤の大きさとリンパ節転移の拡がりとの関連についてみると、腫瘤の大きさによって術前はisozyme Y分画比の値に有意の差は無かったが、治癒切除例では術後に有意の低下がみられ、非治癒切除例では変動が見られなかった。リンパ節転移では、縦隔まで転移がおよんでいるものでは術前のisozyme Y分画比が高値を示したが、治癒切除例では術後、転移の有無にかかわらず、有意の低下が見られた。

全切除例のなかで、全活性値は術前に25%の症例が高値を示したが、手術前後で差は無かった。isozyme Y分画比は術前に71%の症例が高値を示し、その半数に術後正常化がみられたが、術後も高値を示した症例の予後は不良であり、isozyme Y分画比と予後との間に関連が認められた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌患者について血清酵素 Leucine aminopeptidase(LAP)を癌の進展度や手術などによる予後の見地から研究したものであるが、従来十分検討されていなかったそのisozyme分画比(Y分画比)について検討したところ、手術によりその低下を認める傾

向にあり，又術前高値を示し術後も高値を示した症例は予後不良であることを認め，重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。